

はじめに



津野 洋 センター長

琵琶湖環境科学研究センターは、琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関として平成17年（2005年）に設立し、科学的な知見や成果をもって県の政策や県民への還元という役割を果たしてきました。

昨今、琵琶湖とその集水域に目を向けると、水質改善のための様々な取り組みにより、水質は一定の改善がみられる一方で、在来魚介類の減少など、琵琶湖と滋賀県の環境の課題は複雑化・多様化しています。また、生態系をはじめ様々な場面で、気候変動の影響が出始めています。

琵琶湖が大切な湖であることは言うまでもありません。琵琶湖とそれを取りまく森、川、里、湖に何が起きているのか。それを正確に知り、何をすべきかを追い求めることが、琵琶湖の、滋賀の環境を守るうえで重要なことでもあります。

これまでの調査研究の蓄積があるとは言え、琵琶湖をはじめとする自然は奥深いもので、まだまだ未解明の課題が数多くあります。こうした課題を解き明かすため、今後ともセンターでは、琵琶湖と滋賀県の環境の変化を捉えることを目的として継続的にモニタリングを行うとともに、多様な主体と連携し、総合的な視野に基づく研究を進めてまいります。

沿革

平成17年（2005年）

「滋賀県琵琶湖環境科学研究センター」開設

滋賀県琵琶湖研究所および滋賀県立衛生環境センター（環境部門）の統合

平成25年（2013年）

「地域づくり総務大臣表彰」受賞（試験研究機関表彰）

平成26年（2014年）

滋賀県森林センター（試験研究部門）を移管

「琵琶湖環境研究推進機構」創設

平成27年（2015年）

水質実験調査船「びわかぜ」運用開始

平成29年（2017年）

国立研究開発法人国立環境研究所 琵琶湖分室の設置

令和2年（2020年）

センター第六期中期計画（令和2～4年度）の開始